

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
																N	値											
				マンモント	褐灰	Vg	bg							CL'														
126				灰赤	Bg	cg								CM'														
127				灰褐	Vg	bg								CL'														
128					Bg	cg																						
129				褐灰	Bg																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深層) 図		原位置試験 (孔内土基色)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														N 値	図														
		85.57~131.00		アフライト 灰褐				bg cg bg	β 2	130.16m: 傾斜35°の割れ目の一部が褐色に風化するが、劣化は伴わない。 130.16m以深では、径2~3mmの長石の一部が白濁化する。 130.50~130.54m: 傾斜45°の割れ目沿いに暗褐色化する。軟土化はないが、径1~3mmの石英脈を伴う。																			
131				コア欠如						131.00~132.00m: コア欠如																			
132		86.28~132.00		アフライト 灰褐				bg cg bg	β 2	132.00~133.46m: 割れ目と脈密着割れ目が1~3cm程度の間隔で面に分布し、径1~3cm程度に岩片化した部分を多く含む。要質と風化による劣化はないが、133.46mの傾斜10°の割れ目には径1mm程度の暗褐色粘土を挟む。 132.00~132.65mと133.10~133.30mは、径1~2cmの岩片状を呈する。																			
133		87.69~134.00		アフライト 灰褐				bg cg bg	β 2	133.57~134.00m: 割れ目沿いに長さ5mm前後の細砂状を呈する部分が多い。硬に粘土は付着しない。																			
134		88.40~135.00		コア欠如						134.00~135.00m: コア欠如																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コァチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														N 値	() 図																
136	88.75	135.50	* * * * *	アフライト	灰褐	Bg	vg	bg	β	2	135.00~135.50m: 傾斜10~30°の割れ目が1~2cm間隔で分布し、岩片状を呈する。割れ目に粘土付着や粘土脈の存在はない。	0	CL'	0																	
	89.11	136.00		コア欠如							135.50~136.00m: コア欠如																				
	89.46	136.50	* * * * *	アフライト	灰褐	Bg	vg	bg	β	2	136.00~136.30m: 径1~2cm程度の岩片状を呈する。岩片に粘土は付着しない。	2	CL'	0																	
	89.64	136.75		コア欠如							136.30~136.50m: スライムを多く含む。 136.50~136.75m: コア欠如。部分的に粘土状のものを含む。																				
137	89.64	136.75	* * * * *	アフライト	灰褐	Bg	vg	bg	β	2	136.75~137.00m: 径1~2cmの岩片からなる。	3	CL'	0																	
138	89.64	137.00									137.00~138.42m: 全体に緑泥石化により緑色を帯びている。概ね1~3cm間隔で傾斜10~30°の割れ目と、これと斜交する傾斜40~50°の割れ目が発達する。微小の黄鉄鉱が晶出する。上記の両割れ目系の交差部の一部や、137.67~137.73mの傾斜45~50°の割れ目沿いでは、径1cm前後の塊状を呈し、暗褐色粘土が付着する場所があるが、塊の回転や移動は見られず、定向配列もしていない。																				
139			* * * * *	アフライト	灰褐	Bg	vg	bg	β	4	138.21~138.42m: 変質した割れ目間隙部で膠着物質は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。 138.38~138.42m: 上位に比べて軟質化し硬さ「E」となり、細粒化する。脈状の粘土は伴わない。 138.42~140.04m: 傾斜50~60°と、これと斜交する30°程度の割れ目が発達する。 138.63~138.66m: 上下位に比べて軟質で硬さ「E」となり、緑色を帯び細粒化する。脈状の粘土は伴わない。	4	CL'	0																	
											139																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
														N 値	図											
		141	[Pattern]	マンモナイト	赤灰	Bg	Vg	β		140.04~140.33m: 傾斜5~30°の微細な割れ目が発達する。節理面が保存するが、上下位に比べてやや軟質である。	5 10	CL'														
		142								141.71~142.00m: 傾斜10~30°の割れ目が発達し、細片~細粒化する。岩芯の一部はやや硬質であるが、全体にやや軟質となる。	3 10															
		143								142.00~142.49m: 上下位に比べて割れ目沿いの劣化は軽微であるが、割れ目沿いに細片化する。	8 10															
		144								142.48~143.53m: 割れ目沿いが細片~細粒化し、特に、142.85~143.03m、143.33~143.53mは割れ目が密集する。粘土状部は挟まない。	8 10															
		144								143.53~145.46m: 上位に比べて劣化は軽微であり、割れ目は少なくなる。割れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。傾斜20~30°の割れ目が卓越する。	8 10															
					灰	IVg					CH'															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験					原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)								
															(N 値)	(深度)	(深度)	(深度)	(深度)																			
															0	10	20	30	40	50																		
		146		アソサイト																																		
					灰																																	
		147																																				
		148																																				
		149																																				
		99.01	150.00																																			

孔番 H24-B14-2 孔

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

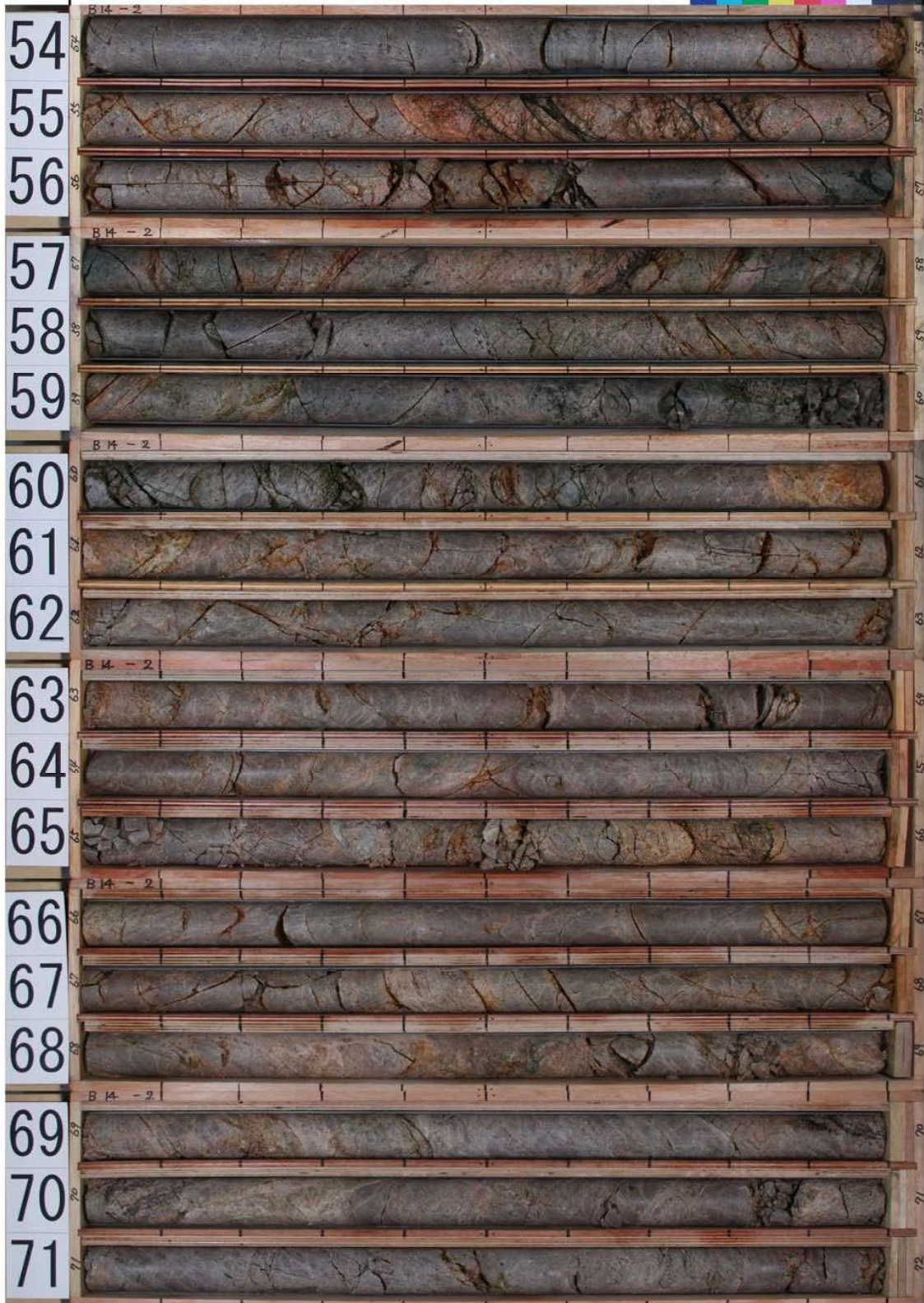
深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

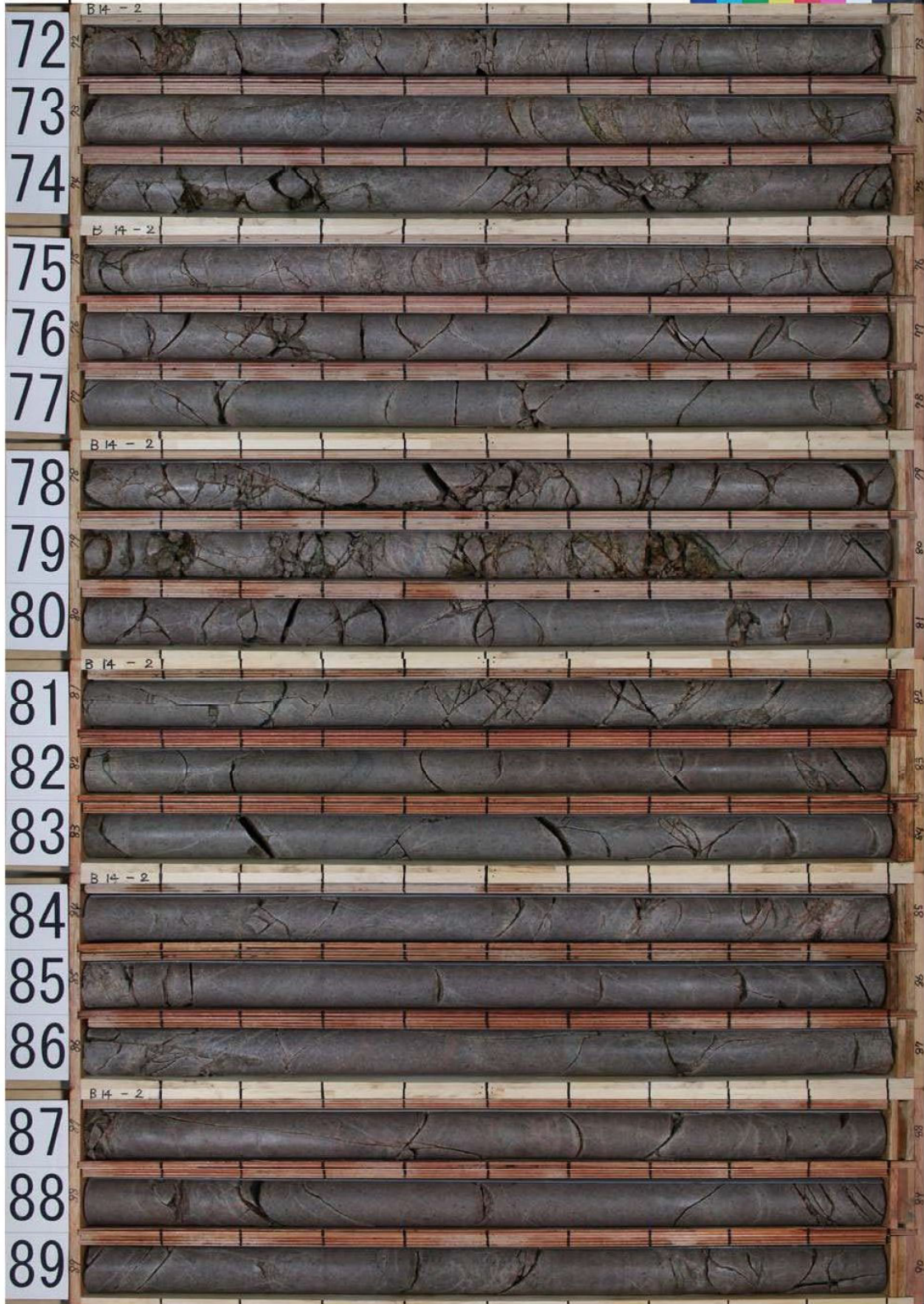
深度 54.00m ~ 72.00m
孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

深度 72.00m ~ 90.00m

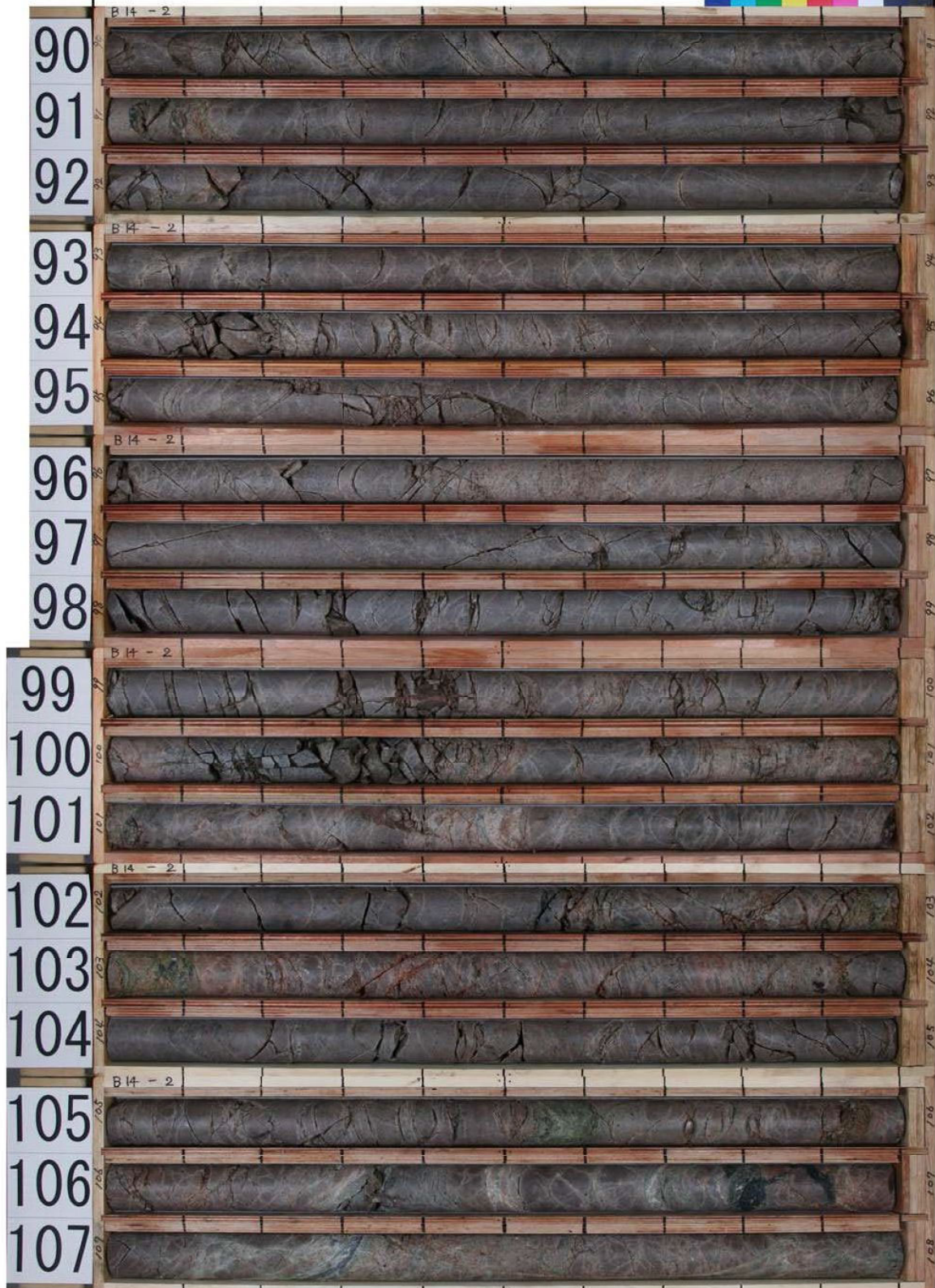
孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

深度 90.00m ~ 108.00m

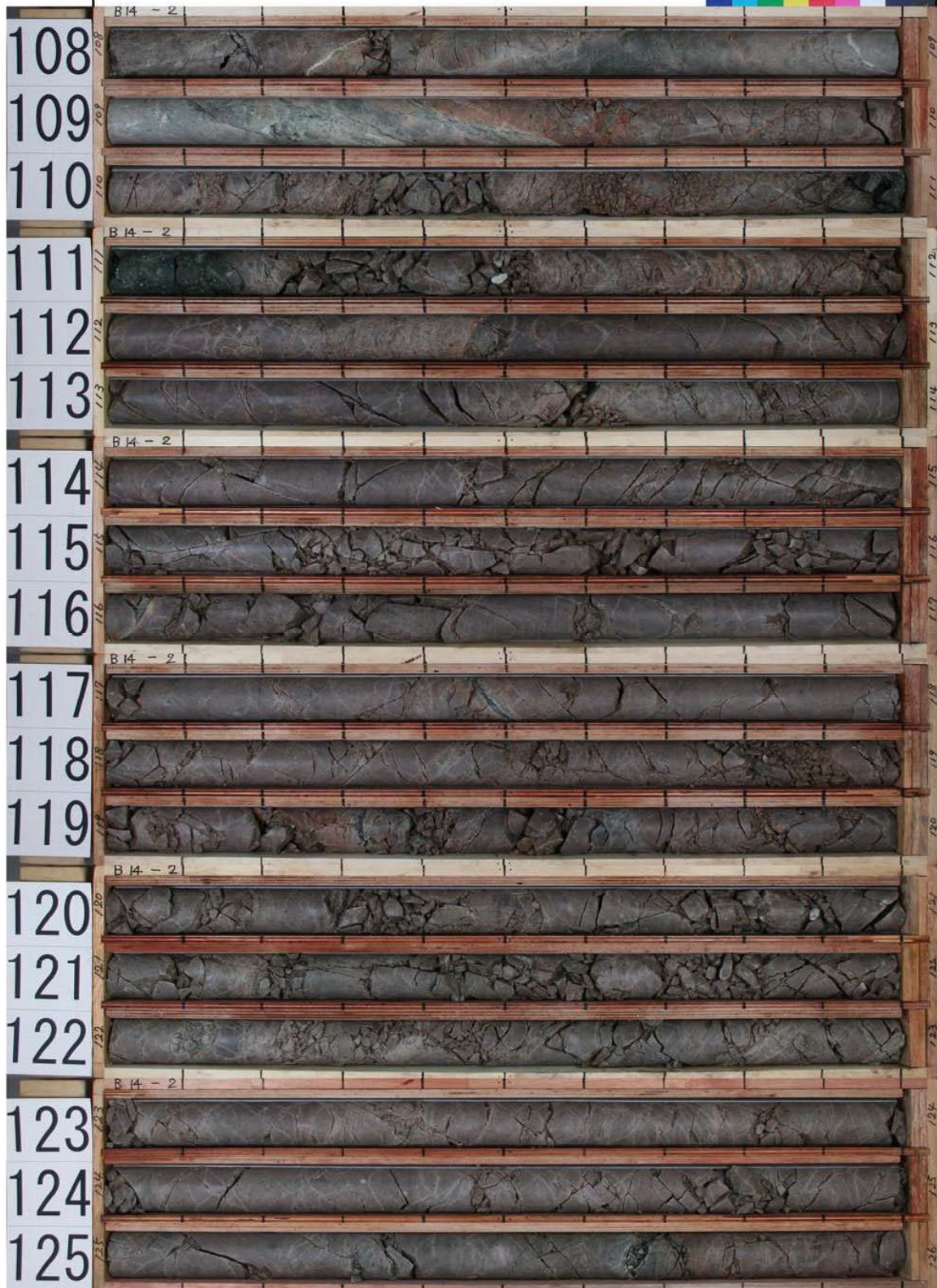
孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

深度 108.00m ~ 126.00m

孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

深度 126.00m ~ 144.00m

孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

深度 144.00m ~ 150.00m

孔口標高 7.06m



余白

H24-D1-3

余白

ボーリング柱状図

調査名 XXXXXXXXXXXX
 事業・工事名 XXXXXXXXXXXX

ボーリングNo.								1
----------	--	--	--	--	--	--	--	---

ボーリング名	H24-D1-3		調査位置	X:257.570 , Y:898.500		北緯	35° 45' 12.41"	
発注機関	日本原子力発電株式会社				調査期間	2013 年 5 月 14 日 ~ 2013 年 6 月 5 日		
調査業者名	XXXXXXXXXXXX		主任技師			コ	ア	ボーリング責任者
孔口標高	6.90 m	角	180° 上 90° 下 45.0°		方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		ハンマー 落下用具
総掘削長	60.00 m	度	0°		地盤勾配	鉛直 0.0° 水平 0°		ポンプ
					使用機種	エンジン		
					試験機			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 区分 図	岩種 区分	色調	硬軟	コア 形状 状態	風化 状態	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	N 値	原位置試験 (孔内水深動態)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チューブ / ポット	給 圧 (KN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)					
												0	10 20 30 40 50																	
1			盛土 に ぶ い 褐	黒褐					0.00~9.84m: 盛土 0.00~0.18m: 礫 径5~20mmの黒色砂岩からなる。 0.18~3.57m: 礫混じり粗砂 径10~50mmの花崗斑岩、アブライト の歪角礫を含む粗粒砂でルーズである。 礫は殆んどが硬質である。径3~ 10mmの黒色砂岩も多く含む。	0	100																			
2																														
3	4.38	3.57	コア欠如 灰褐	コア欠如					3.57~4.00m: スライム ほぼ均質な中粒砂で、ルーズである。 3.96m付近には若干シルト分を含む。	0	100																			
4	4.07	4.00								4.00~4.49m: 礫・シルト混じり中砂 径2~5mmの石英粒、長石粒、径5~20 mmの花崗斑岩、アブライト、黒色砂 岩片を含む。若干のシルト分を含む。 ルーズである。4.00m、4.15m、4.30m 付近に木片を含む。	0	100																		
			盛土 に ぶ い 黄						4.49~6.00m: 礫混じり粗砂 径2~5mmの石英粒、長石粒、径5~10 0mmの花崗斑岩、黒雲母花崗岩、アブ ライイトの歪角礫を含む。ルーズである。 礫は殆んどが硬質。稀に黒色砂 岩の礫も含む。 4.49m、4.65m付近に径70~100mmの黒 雲母花崗岩、花崗斑岩の歪角礫を含 む。	0	100																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コブチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)												
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																							
		2.66		盛土	にぶい黄橙						5.00~5.10m: 礫は孔壁から落下したコアである。 5.12m: 木片を含む。 5.25m付近に黒色の砂岩を含む。				0	100																							
		6.00		コア欠如	にぶい黄橙						5.70m: 径3~4mmの黒色砂岩片散部が存在する。 6.00~6.39m: スライム中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質でややルーズ。 6.25~6.27m: 径2~3mmの黒色砂岩片を含む。 6.39~7.40m: 砂礫礫は径2~5mmの石英粒、径5~120mmの硬質な花崗斑岩の産角~産円礫からなり、強率10~40%程度。基質は締まった粗砂からなる。 7.00m: 径30mmの黒雲母花崗岩の半クラ礫を含む。 7.20~7.25m: 礫は孔壁から落下したコアである。 7.40~7.75m: スライム中砂からなる。所々、粗砂や硬質礫を含み不均質。全体がややルーズである。 7.75~8.38m: 硬湿じり砂径2~10mmの黒雲母花崗岩、花崗斑岩の礫を含む細~中砂からなる。 8.38~8.73m: スライム 8.38~8.60m間は径10~30mmの花崗斑岩の硬質な産角礫主体で、8.50mに径20mmの黒色砂岩礫も含む。8.60~8.73m間は中砂からなる。 8.73~9.00m: 中砂やや不均質である。若干のシルトと小礫を含む。ややルーズである。 9.00~9.75m: スライム中砂からなる。9.66~9.75mには花崗斑岩の礫を含む。 9.35m付近に径5~10mmのモルタル片を多く含む。 9.75~9.84m: モルタル砂岩状を呈する硬質モルタル。基盤岩と傾斜55°で接している。 9.84~60.00m: 花崗斑岩斑晶は径1~5mmの石英、径1~7mmの長石からなる。 9.84~10.77m: 著しく軟化し、割れ目はほぼ消滅する。原岩組織は残存する。径10mm前後の大型の長石斑晶を多く含む。粘土化部や粘土膜は分布しない。消滅しかかった傾斜40~60°の割れ目が残存することがある。																												
		2.38		盛土	にぶい黄橙																																		
		6.39		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		7.40		盛土	にぶい黄橙																																		
		7.40		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		1.67		盛土	にぶい黄橙																																		
		7.40		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		1.42		盛土	にぶい黄橙																																		
		7.75		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		7.75		盛土	にぶい黄橙																																		
		8.38		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		8.38		盛土	にぶい黄橙																																		
		8.73		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		8.73		盛土	にぶい黄橙																																		
		9.00		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		9.00		盛土	にぶい黄橙																																		
		9.75		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		9.75		盛土	にぶい黄橙																																		
		9.84		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		9.84		盛土	にぶい黄橙																																		
		9.91		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		9.91		盛土	にぶい黄橙																																		
		9.97		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		9.97		盛土	にぶい黄橙																																		
		0.01		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		0.06		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		9.84		盛土	にぶい黄橙																																		
		9.84		コア欠如	にぶい黄橙																																		
		9.84		盛土	にぶい黄橙																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水深基準)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															(N 値)	(値)																				
		-0.50		花崗斑岩	Eg	Vg	dg	δ	2		10.47~10.50m: スライム 礫混じり砂質シルトからなる。		D'																							
		-0.92		明礫灰							10.77~12.00m: 著しく軟質化するが 割れ目の大半は残留する。また、 原岩組織も明確である。割れ目は傾 斜40~60°と、これと斜交~直交す る50~70°の2系統が見られ、割れ目 とその周辺が風化で砂状化する部分 もめる。割れ目の一部はマンガン 鉱染を受け黒褐色化する。粘土脈は殆 んど摸らない。		D'																							
11		-1.59		花崗斑岩	Eg	Vg	cg	δ	2		11.90m: 傾斜45°の消滅しかかった 割れ目沿いに断片的に緑泥石化によ り緑灰色化する。		D'																							
		-1.68		明礫灰							12.00~12.13m: スライム シルト質砂からなる。		D'																							
13				にぶい黄礫	Eg	Vg	dg	3			12.10~13.03m: 原岩組織や割れ目の 大半は残留するが、コア全体が著し く軟質化する。傾斜30~40°の割れ 目と低密着割れ目主体で、一部で60 ~70°の割れ目と斜交する。各割れ 目沿いは砂状化する。一部はマンガン 鉱染を受け黒褐色化が弱い。粘土 化はないが、12.13~12.17mは幅 1~2mmの緑灰色粘土が縦状に分布し、 12.17m以深は割れ目の一部に幅1mm前 後の粘土脈を挟む。いずれも軟質な 粘土である。		D'																							
				にぶい黄礫	Cg	Vg	cg	2			12.57~12.61m: 上部45°、下部35° で緑泥石化により緑灰色を呈する。 中下部に幅1~2mmの軟質な淡緑灰色 粘土を伴う。		D'																							
				にぶい黄礫	Eg	Vg	dg	3			13.03~13.32m: やや硬質で割れ目は マンガン鉱染を受ける。		D'																							
				にぶい黄礫	Dg	Vg	cg	2			13.32~13.47m: 風化で砂状化してい る。		D'																							
				にぶい黄礫	Dg	Vg	cg	2			13.47~13.94m: 傾斜50°の割れ目が 平行に複数分布する。岩片はやや軟 質化するが、砂状化や粘土の挟みは ない。一部でマンガン鉱染を受け黒 褐色化する。		D'																							
14				にぶい黄礫	Eg	Vg	dg	3			●13.94~14.06m: 礫群部 13.94~13.99m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上部60°、下部55°でともに直線的 でシャープに連続。径5~10mmの粘土 化した岩片主体で、岩片間の基底 (砂主体)はマンガン鉱染で黒化する。 浅黄色を呈する。幅20~30mm。 13.99~14.00m: 粘土状部 (Hc-1) 上部55°、下部60°でともに直線的 でシャープに連続。径1mm前後の石 英粒を含む。軟質。浅黄色を呈する。 幅10mm。		D'																							
				にぶい黄礫	Dg	Vg	cg	2			14.00~14.03m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上部60°で直線的にシャープに連続。 下部55°で凹凸している。径1mmの石 英粒と径5mm前後の花崗斑岩の岩片を 多く含む。硬質。浅黄色を呈する。 幅20mm。 14.03~14.06m: 粘土状部 (Hc-1) 上部55°、下部60°で直線的に連続。 軟質。浅黄色を呈する。幅10~15mm。 14.06~14.41m: 原岩組織は残留する が、割れ目は大半が消滅する。残存 する14.30mの傾斜60°の割れ目のほ か、岩片間を縫うように幅1~2mmの 軟質な白~明黄褐色粘土が分布する。 ●14.41~14.52m: 礫群部 14.41~14.44m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上部40°、下部60°でともに直線的 でシャープに連続。大半が粘土化す る。灰白~にぶい褐色を呈する。幅2 0~30mm。 14.47~14.48m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上部60°で直線的にシャープに、下 部60°で波打って連続。径1~2mmの 石英粒、径2~3mmや長さ5~10mm、幅 2~3mmの扁平な化崗斑岩の礫を含む。 軟質。灰白色を呈する。幅15~10mm。 14.48~14.52m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上部60°、下部60°でともに直線的 でシャープに連続。約60°の割れ目 沿いに幅1~2mmの軟質な灰白色粘土 脈を挟む風化岩片からなる。明黄褐 色を呈する。幅20mm。 14.52~22.47m: 比較的割れ目が少な い。16.48~20.08mと21.75~22.47m 間は風化が弱い。これを除く区間は やや風化が進み軟質化する。全区間 で粘土化や粘土脈の分布は少なく、 硬質は弱い。割れ目は傾斜10~40° が主体で、部分的にこれに交差する6 0~80°の割れ目や低密着割れ目が認 められる。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図		原付置試験 (孔内水圧感)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															N 値	図													
		16	花崗斑岩	にみい層	Dg	og	δ				16.17~16.28m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、径10~30mmの礫状コアを呈する。	10 [10]	GL'																
	17	灰層																											
	18			Wg		2	18.05~21.00m: 割れ目沿いに薄くマンガン染染を受ける。	10 [34]	GM'																				
	19			明礫灰	Cg	og	γ				19.10~19.22m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。	10 [20]	GL'																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級	分区	標準貫入試験		室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
															(N 値)	(図)													
		21	花崗斑岩		Cg																								
					Dg																								
					Wg																								
					Cg																								
		22																											
		23																											
		24																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	岩級区分	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩内水位 (m) / 測定月日	試験 (標準貫入)		原位置試験 (孔内水圧感測)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															N 値	(N 値 ~ 深度) 図																			
		26	明礬灰 花崗斑岩	花崗斑岩	Cg	Vg					25.29~26.97m: 傾斜50~70°の割れ目主体で、一部でこれと斜交~直交する50~60°の割れ目が見られる。上位に比べ風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、微箇所の割れ目に幅1~5mmの軟質粘土脈を挟む。 25.94m: 傾斜20°で幅20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。 26.14m: 傾斜58°の割れ目の一部に幅1~5mmの軟質な灰白色粘土が分布する。割れ目沿いは全体にマンガン鉱染で黒褐色化する。 26.94m: 傾斜45°で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟む。 26.72m以深は上位に比べ、硬くなる(硬さF1)。 26.97~27.26m: 上端45°, 下端50°の割れ目間は風化で全体が軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。 27.26~28.43m: 27.64m以深はやや硬質であるが、それ以深は軟質化する。割れ目は残置し、傾斜40~60°のもの为主体で同角度の低密着割れ目も多い。割れ目沿いや低密着割れ目沿いは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。 27.70m: 傾斜60°の割れ目沿いで、幅5mm程度は長石が粘土化する。 28.43m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質な粘土脈を挟むが、マンガン鉱染により褐色化する。粘土の色調は不明である。 28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60°のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在は少ない。 28.57m・45°, 28.72m・55°の割れ目は幅2~3mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 29.31~29.95m: 上位と硬さはほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。																								
		27				Dg	Vg						29.95~33.30m: 全体に風化により軟質化~著しく軟質化する。32.63m以深では割れ目が残置し、一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以下では割れ目は一部消滅し、割れ目や隙間部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかにある。また、部分的に割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。																						
		28				にごい黄橙	Cg	OR	2																										
		29			Dg		Vg																												
					Vg																														